

四万十市新食肉センター整備基本設計業務委託プロポーザル技術提案書評価要領
技術提案書評価用

1 評価要領（技術提案書評価用）の位置付け

本要領は、四万十市新食肉センター整備基本設計業務委託公募型プロポーザル実施要項に基づき、参加者から提出された技術提案書を審査会が評価するために必要な事項を定めるものとする。

2 事前審査

提出された、技術提案書は、提案者番号を付した後、業務実績等客観評価の資料を添えて各審査員に送付する。

3 技術提案書の特定・非特定及び受託候補者の選定・非選定方法

（１）技術提案書は、その内容についてのプレゼンテーション及びヒアリングの結果を含め、本要領に基づいて審査会の審査員が評価する。

（２）評価項目及び評価基準は、以下のとおりとする。

【業務実施方針】

評価項目	評価基準
1 業務への取組体制等	取組意欲の高さや積極性
	業務への工夫、配慮
2 担当チームの特徴	担当者の技術力の高さ
	チーム配置の本業務への適正
3 設計上特に配慮する事項	業務内容、業務の背景や課題等への理解度
	総合的見地からの考え方の的確性

【特定テーマに対する技術的提案】

評価項目	
テーマ１ 食肉センターのありかたについて	・安全、安心な食肉供給拠点として、業務を継続するための機能並びに労働安全性を十分に確保しうる建築・構造・設備の整備に対する考え方。 ・省エネ対策などライフサイクルコスト縮減、建物のメンテナンス性など第３セクターによる施設管理、運営に配慮した建築計画の考え方
テーマ２ 設計上の課題について	・敷地が狭隘であり、かつ、既存施設を稼働させながらの建替えである状況を踏まえ、工事期間中における周辺施設への影響について想定される課題の抽出と対策

	<ul style="list-style-type: none"> ・新食肉センターと既存事業者建物との接続するための工夫や設計手法の考え方 ・その他新食肉センター整備にあたり、どのような問題点に着目し、どのように解決するか
テーマ3 コスト削減の取組について	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画修正版に示されている施設の整備を行ううえで、施設整備費の軽減に向けた考え方 ・実現可能な範囲で工期短縮や品質を確保しつつ市場を反映したコストを削減するための設計手法の考え方

評価基準（各テーマごとに評価する）
的確性（与条件との整合性、理解度）
独創性（新たな視点や工夫による効果）
実現性（理論的な裏付けに基づく説得力等）

（３）各評価項目の評価基準毎の評価配点は以下のとおりとする。

各評価項目評価基準別配点表

評価項目			評価基準	配点
業務実施方針	1	業務への取組体制等	意欲の高さ、積極性	5
			工夫、配慮	5
	2	担当チームの特徴	技術の高さ	5
			本業務への適正	5
	3	設計上特に配慮する事項	課題等の理解度	5
			考え方の的確性	5
	業務実施方針に対する審査員一人当たりの持ち点			30
特定テーマに対する技術提案	テーマ1 食肉センターのありかた	・業務の継続性等を確保しうる建築、構造、設備の整備に対する考え ・第3セクターによる施設管理、運営に配慮した建築計画の考え	的確性	10
			独創性	10
			実現性	10
	テーマ2 設計の進め方	・既存施設を稼働させながらの建替状況を踏まえ、工事期間中における周辺施設への影響について	的確性	10
			独創性	10

		<ul style="list-style-type: none">・新食肉センターと既存事業者建物との接続するための工夫について・その他新食肉センター整備にあたり、どのような問題点に着目し、どのように解決するか	実現性	10
	テーマ3 コスト削減	<ul style="list-style-type: none">・施設整備費の軽減に向けた考え方・工期短縮や品質を確保しつつコストを削減する手法	的確性	10
			独創性	10
			実現性	10
	特定テーマの技術提案に対する審査員一人当たりの持ち点			
業務委託料参考見積額				20
審査員一人当たりの持ち点				140

※ 価格点 満点 20 点

価格点＝（提案価格のうち最低価格/自社の提案価格）×価格点満点

（４）採点はプレゼンテーション及びヒアリング終了時、各審査員毎に以下の評価水準に基づき評価を行う。

評価項目	評価水準	評価点
業務実施方針	業務実施方針が極めて優れている	5
	業務実施方針が優れている	4
	業務実施方針が適切である	3
	業務実施方針がやや劣っている	2
	業務実施方針が劣っている	1

評価項目	評価水準	評価点
特定テーマの 提案に対する 評価	具体的な提案の的確性・独創性・実現性が極めて良好である	10
	具体的な提案の的確性・独創性・実現性が良好である	8
	具体的な提案の的確性・独創性・実現性が十分である	6
	具体的な提案の的確性・独創性・実現性がやや不十分である	4
	具体的な提案の的確性・独創性・実現性が不十分である	2

（５）技術提案書特定書の対象となる選定基準を以下のように定める。

業務実施方針及び特定テーマの提案から、本事業の課題への十分な理解や取組意欲が読み取れるとともに、豊富な実績、適切な専門性、高い技術力に裏付けられたものであり、提案者が本協議会の求める優れた設計者としての資質を総合的に備えていると

認められること。

(6) 評価点の算出

技術提案書の特定、非特定は(5)の選定基準に基づき審査会で協議を行った後、審査員全員の評価結果を集計し、客観評価の評価点を加えた総合評価点にて順位付けを行う。

(7) 技術提案書が特定された場合は、その理由を付して、提案者を受託候補者に選定し、非特定の場合はその理由を付して非選定とする。